

中心市街地における昼夜間別で見た市民の回遊行動分析

—金沢市中心市街地を対象として—

金沢大学 学生会員 ○出水 瑛 金沢大学 フェロー 高山 純一
金沢大学 正会員 藤生 慎

1. 研究背景

現在、わが国は総人口が減少し、超高齢社会を迎えた。また、「まち」は薄く広がり、病院や市役所が郊外に立地し、車がなければ生活しにくい拡散型の都市構造となっている。このままでは「まち」に以下の4点が危惧されている。

- ①車を利用できない高齢者などが、公共公益施設や店舗などを利用しにくくなり、生活利便性が低下する。
- ②新たなインフラの整備が必要になり、維持管理コストも増えることに伴う、公共サービスの低下、都市経営コストの増大。
- ③人との交流やにぎわい、文化などの機能がなくなり、まちとしての魅力を失い、生活空間としての魅力の喪失。
- ④車の利用が増え、多くのエネルギーが必要となるとともに、開発により自然が失われる環境負担の増大。

これらの問題を解消・回避するために都市機能の拡散に歯止めをかけ、都市機能が集積した、アクセスしやすい「生活拠点」を作り、コンパクトでにぎわいのある「集約型都市」を目指す動きがある。

本研究では石川県金沢市中心市街地を対象とする。

2. 金沢市の現状と研究の目的

(1) 金沢市の取り組みと問題点

先述した問題を解消、回避するために、金沢市において、2007年に発表された第1期認定計画では都市機能の低下を食い止め、伝統とにぎわいが調和した金沢ならではのまちづくりを進めた。また、2012年に発表された第2期認定計画では、北陸新幹線の開業を見据え、歴史文化遺産といった金沢固有の資産を活かし、人が住まい、集い、にぎわう、元気な中心市街地の実現を目指し、様々な事業を展開してきたが、2017

年に発表された金沢市中心市街地活性化基本計画では問題点が指摘されており、そのうち回遊性に関連する「生活」・「商業」・「交通」に分類し現状と課題をまとめると以下の表-1になる。

この現状では金沢市中心市街地の活性化を実現しているとは言えないため、金沢市民の詳細な周遊行動を把握する必要がある。そこで本研究では金沢市中心市街地を対象に回遊行動を調査し分析する。

(2) 本研究の位置づけ

過去に様々な都市で中心市街地を対象とした回遊行動の研究が行われてきたが、これらは昼間のみを対象とした研究である。金沢市は中心市街地と夜間の繁華街が重なっているため昼間と比較が可能である。また、交通手段別で回遊行動を分析した研究は少ないことからこれら二点を本研究の新規性と位置づける。

3. 金沢市中心市街地について

金沢市の人口は約46万人に対して中心市街地の人口は約5万8千人となっており、面積は約860haある。中心市街地の範囲は、商業や業務施設、公共施設

表-1 金沢市中心市街地の現状と課題

	現状	課題
生活	・観光目的での来街者の急増により、中心市街地での買い物を避ける市民が増えている ・来街者が多く訪れる区域の生活利便性が低下している	中心市街地活性化に不可欠な交流人口の拡大を図りつつ、市民生活の質を保つための新たな取り組みが求められている
商業	・商圏における事業所数(小売業)の占有率が低下している ・歩行者・自転車通行量が低迷している ・中心市街地に足を運ばなくなった市民が増加している	継続的な買い回りが期待できる市内及び商圏内からの来街者を増加させるため、幅広い年代を対象とする商業環境の創出を図ることが必要
交通	・市民によるバス利用が伸び悩んでいる ・駐車場の充実に求める声がある	自動車から公共交通への転換を図り、市民や来街者が、自動車に頼ることなく快適に移動可能な交通環境の整備が求められている

などの主要な都市機能拠点や金沢の個性を表す歴史・文化資源が集積している旧城下町区域を対象としている。また、政府の定めた中心市街地活性化基本計画の認定を受けた全国の都市の中で最も広い範囲であることが特徴として挙げられる。

4. 金沢市民の回遊行動の把握

（1）調査方法

金沢市中心市街地内・外において、市民の回遊行動を把握するため、金沢市民に対してアンケート調査を行った。アンケートの内訳としてはA4用紙7枚と返信用封筒で構成され、部数は5000部で、中心市街地内・外にそれぞれ2500部ずつ配布した。1世帯に2部付属させるため10000セットのアンケートを配布することとなる。以下の表-2が概要である。

（2）アンケートの内容の詳細

アンケートは設問が4つ、全33問である。

問2、問3では昼夜間別で金沢市中心市街地での行動について聞いている。質問内容は、通勤・通学・パート・アルバイトを除いた行動のうち来街頻度、目的、移動手段、立ち寄り場所の数、滞在時間、消費金額、訪れる際の平均的な人数、訪れる頻度の高い場所、交通イメージについて（5段階評価）、中心市街地の不満点等の設問がある。

問4では回答者の日常的な行動について聞いている。質問内容は、中心市街地内の代表的な場所（金沢駅・近江町市場・香林坊・金沢大学病院・片町・野町駅）に向かう際の移動手段、最寄りのバス停までの所要時間、部門別（生鮮食品、その他の食料品、日用品・雑貨、衣料品、医療品・化粧品、本・雑誌）での購入先、通勤・通学・パート・アルバイト先について、過去半年での中心市街地における行動を聞いている。

（3）基礎集計結果

図-1は中心市街地内・外の年齢分布である。図より、中心市街地内の方が、年齢層が高くなっていることがわかる。これは金沢市における高齢世帯割合が、金沢市全体で20.0%であるのに対し、中心市街地内の割合が27.0%と高くなっていることが影響していると考えられる。

表-2 調査概要

調査対象	金沢市民（中心市街地内・外に住む各2500世帯）
配布方法・配布日	金沢情報（フリーペーパー） 9月19日号によるポスティング
サンプル数・回収率	630世帯分737サンプル 12.6%
質問項目	Q1)個人属性 Q2) 昼間の中心市街地の行動について Q3) 夜間の金沢駅周辺・武蔵ヶ辻・香林坊・片町地区 ^{注1} での行動について Q4) 日常での行動について

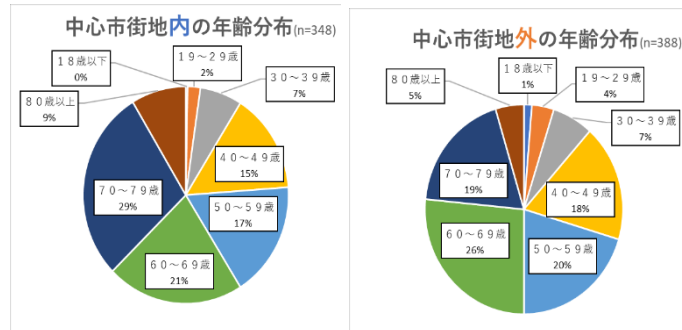


図-1 中心市街地内・外の年齢分布

5. 今後の方針

今回のアンケートの整理・分析を行う。具体的には、昼夜間で市民に行動にどのような違いが見られるか、交通手段別で周遊カ所数に差がみられるかどうか、中心市街地内・外に住む人たちに行動の違い、所有する移動手段での行動の違い等を整理・分析する。

また、今回のアンケートは金沢市民のみを対象としたため、市外（津幡町、白山市等）からの来街者の行動を調査できればと考えている。夜間の行動についてもラズベリーパイを用いたWi-Fiパケットセンサー調査を行う予定である。

6. 参考文献

1) 金沢市中心市街地活性化基本計画

注1) 金沢市における中心市街地内の繁華街・歓楽街